

提示文書

本院で大腿骨周囲の手術を受けた患者さまにむけて

2005年1月～2014年12月までの間に撮影された大腿部のCTを対象に、大腿骨の彎曲を評価しています(研究課題:日本人の大腿骨彎曲についての検討)。大腿骨は骨折、変形性関節症、腫瘍の好発部位であり、整形外科手術が最も多く行われる骨の一つです。大腿骨の手術には髓内釘、プレート、人工関節など様々なインプラントが用いられますが、それらのインプラントの形状は平均的な大腿骨の形態が基準となりますが、日本人の大腿骨の形状が考慮されていないものが多く存在します。インプラントの不適合は骨折や耐久性低下、不安定性などの合併症の原因となりますが、それらの合併症を予防するためには、日本人の大腿骨の形態とインプラントの形状を十分に理解することが必要です。現在行っている研究では、日本人の大腿骨彎曲を測定し、その彎曲の程度から現在用いられている大腿骨のインプラントの形状が適しているのかを検討します。

□ 研究の方法について

この研究の実施には、手術前にすでに撮影された両大腿CTを評価させていただきます。画像表示ソフトウェアを用いて大腿骨の3Dモデルを作成し、大腿骨の彎曲を評価します。集計されたデータは学会発表、学術論文などで公表されることがありますが、個人情報などのプライバシーに関するものが公表されることはありません。また、この研究に伴う利益(効果)はありません。

□ 研究への参加の自由と同意撤回の自由について

研究に参加を希望されない患者さまは平成27年12月31日までに相談窓口までご連絡ください。

□ 研究に関する窓口

この研究の内容について、わからない言葉や、疑問、質問、更に詳細な情報を知りたいなどがありましたら、遠慮せずにいつでもお尋ねください。

研究代表者 三輪真嗣

金沢大学附属病院 先進運動器医療創成講座

研究責任者氏名: 三輪 真嗣 職名: 特任助教

分担者氏名: 青木 裕 職名: 医員

電話: 076-265-2000(代表)

相談窓口: 研究実施診療科の連絡先 電話: 076-265-2374